

十二支の四ツ目・十目に関する俗信について

腮尾尚子

Superstitions on the "Yotsume" and the "Tōme" of the Chinese Zodiac Calendar

はじめに

- ①「四悪十悪」説の原型
- ②「四悪十悪」説
- ③「四目十目」という名称
- ④「四目十目」の迷信に対する批判
- ⑤「四悪十悪」説と方鑑
おわりに

【論文要旨】

丙午・庚申などの十干十二支に関する俗信に比べ、十二支に関する俗信は、先行研究が少なく未だ実像が明らかでない。前稿「十二支の『七ツ目』に関する俗信」では、お互いの生年の支が数えて七ツ目同士になる男女は相性が良い、とする俗説が江戸時代に行われていたことを述べた。本稿では、お互いの生年の支が四ツ目と十目に当たる男女の組み合わせを不吉とする俗説をとり上げ、その内容の変遷などについて述べることにする。

この四ツ目・十目を忌む相性の説は、七ツ目を喜ぶ相性の説と吉凶一対として扱われる場合もあるが、両者は本来別々に成立したものである。先行論文に依れば、右の四ツ目・十目に関する禁忌は、江戸時代中期の「四厄重惑」説を原型として生まれたものであり、当時「四悪十悪」と呼ばれていたという。調査の結果、右の「四厄重惑」と並んで「四厄十惑」という説が行われており、これも「四悪十悪」の原型と考へ得ることがわかった。「四厄重惑」・「四厄十惑」説は共に、中国の「当梁年」とい

う俗忌の影響を受けている可能性がある。

江戸時代の「四悪十悪」説には、調べてみると二系統が存したことがわかる。その一つは、一支につき組み合わせを忌む支を一つずつ設けている系統であり、もう一つは、一支につき二つずつ設けている系統である。これらのうち、後者の系統の方が主流となり、現在までも伝わっている。

現行の辞典類では、右の「四悪十悪」説を、一般に「四目十目」の名で呼んでいる。これは、明治期以降、「四悪十悪」説で忌む「四ツ目十目」が、「夜目遠目」という諺と結びついたことにより生じた名称である。

尚、江戸時代の家相者の説に、その年の支から数えて、四ツ目と十目に当たる支の表す方位を、その年の凶方とする説があった。この方位の説と「四悪十悪」説の関連性については、今後、追究していきたい。

以上、本稿では、従来あまり注目されなかった俗信の輪郭について記した。